十和田市

「食」の輪で子どもたちを笑顔に。地域で支え合うこども食堂

十和田こども食堂実行委員会／水尻 和幸さん

子どもの貧困と孤食問題の解決に向けて、子ども食堂の開催、ひとり親食材配布、お弁当配布などの支援を県内各地で継続的に行っている。クラウドファンディングで資金を募り、日本初のこども食堂バスを導入。

青森県の子どもの貧困を減らしたい！

子どもの貧困に立ち向かう子ども食堂を十和田市に

十和田市青年会議所の理事として十和田市のまちづくりやボランティアを率先して行う水尻さん。あるとき知り合いの弁護士から「相談者さんのなかに、経済的に食事に困っている親子がいる」と相談されたことがきっかけで、十和田市での子ども食堂に取り組み始めました。「知り合いに声を掛けてメンバーを集め、2019年5月、十和田市民交流プラザトワーレで初めての子ども食堂を開催しました。このとき集まったのは、親子100名、ボランティア60名。やってみて、求めている人と手伝いたい人の需要があるんだなと実感しましたね」。これを機に、十和田市の助成金を活用した、流しそうめんやBBQなど屋外こども食堂の実施や、公共施設での親子参加型こども食堂を実施しました。

「続けていくうちに、冬の期間も継続できないか、距離が遠くて子ども食堂に行きたくても行けない子どもたちに何ができないか、という声が出てきました。私自身、食堂車やバスなど乗り物が好きだったこともあり、『移動し出向くことができる食堂バス』があったらいいなと思い、クラウドファンディングで資金を募ることにしました」。

「奥入瀬ひょうたんランプ号」で県内各地を駆け巡る！

「初めてのクラウドファンディングでしたが、最終的に目標の200万円を大きく上回る412万円もの資金が集まりました。60人乗りの大型バスを購入し、食堂バスにするための改造をして5月から運用を開始する予定でしたが、コロナでままならず…。そこで、弁当の配布や食材配布に切り替え、フードパントリーの拠点として活用するようになりました」。

これまで、食堂バスを活用したお弁当配布、ひとり親食材配布支援、クリスマスケーキの材料配布などを1ヶ月に2～3回のペースで実施してきました。また、緊急的に支援を希望される方へ備蓄している食材を無料で配布するだけでなく、必要に応じて土日関わらず配達も行っています。

支援活動についてはSNSでの情報発信だけではなく、一度参加してくださった方にLINE登録をしてもらうことで直接情報を届けるようにしており、すでにLINE登録は150件を超えています。また「活動内容を発信することで、当日寄付する食材を持参してくれる方もいて、大変助かっています」と水尻さん。寄付で提供いただく食材のほか、基本的には助成金や補助金などで得られるお金を使って子ども食堂で提供する食材を購入しています。

前日のうちに仕込んだピザ。当日は焼きたてを提供。

県内各地に広がる子ども食堂の輪

バスを手に入れたことで十和田市外の市町村でも支援活動ができるようになり、これまで実行委員会では23市町村を回って支援活動をしています。県内各地で活動するときには、行った先々で集まったボランティアの方にもご協力していただくそうです。また、県内各地をバスで回って活動してきたことで「自分たちの地域でもこども食堂をやりたい」と団体を立ち上げた人もいます。支援の輪が広がり始めたことで、そういった団体の育成やサポートも行っています。

子どもたちの笑顔のために、こども食堂バスは今日も走る。

屋外こども食堂の様子。親子での参加が多く見られる。

最大16名、食事できる座席あり。

食堂バス内での調理の様子。奥には水道もある。

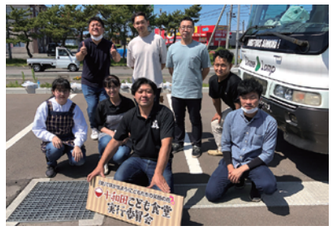
「十和田市での活動は3年間、毎月2、3回やってきたので、だいぶ定着しました。毎月参加した子どもたちは全員が笑顔を見せてくれ、活動を通じて地域全体を幸せにできていると実感できる」と水尻さん。また、最近は参加者からボランティアになってくれる方も多く、親子で手伝いたいと言ってくれるなど、いい循環が生まれています。

資金調達と継続が子ども食堂・フードパントリー維持の鍵

2021年には補助金を活用して冷凍車も購入したことで、フードパントリーとしてできることが増えました。ただ、冷凍車やバスの維持費は助成金では賄えないので、自分たちで運営資金を確保していかなければならないと話します。

「私たちの活動で、青森県全体の子どもの貧困を減らすことが一番の目的。子ども食堂は資金の調達と継続がとても難しい。人口が少ない町村で支援活動が継続できるように、度胸と覚悟を持ってやっていく必要があります。なにかやりたいけれどなかなか踏み込めない人の背中を押してあげられる存在になりたいですね」。子ども食堂に向けた支援の輪が、県内各地で広がり始めています。

※フードパントリーとは
生活困窮者やひとり親家庭など、何らかの理由で十分な食事を取ることができない状況の人々に食品を無料で提供する支援活動のこと。



メンバーを中心に、たくさんの協力を得てこれからも継続!

めざすは県内市町村制覇!

団体データ

十和田こども食堂実行委員会

- 設立　2019年1月
- メンバー　15～20名
- 拠点　十和田市
- 活動エリア　青森県全域
- 住所　〒034-0041
  十和田市相坂字高清水78-56
  フードパントリー笑輪内
- TEL・FAX　0176-27-1815
- MAIL　mizushiri.kazuyuki@gmail.com
- HP　https://towada-kodomoshokudou.jp/
- Instagram　kodomosyokudoubus

HP　facebook

連携先機関

- 十和田市役所
- 青森県こどもみらい課
- 東北町サポートピノキオ
- 個人弁護士事務所

団体のあゆみ

2019	● 十和田市内の公共施設を活用し、子ども食堂を開催
	● 十和田こども食堂実行委員会 設立
2020	● クラウドファンディングにて、子ども食堂の専用バスを購入、運用開始
2021	● 補助金を活用してフードパントリー用の冷凍車を購入、運用開始

ここがPOINT!

地域みんなを巻き込んで子ども食堂を成立させる

資金獲得のために実施したクラウドファンディングでは、食堂バスの命名権を購入してもらい「奥入瀬ひょうたんランプ号」という名前を付けていただきました。バスには企業・個人の広告スペースを設け、協賛・応援していただくかたちで新しい資金獲得を実践しています。
地元の農家や製造業者などから食料の寄付をいただく、ボランティアに参加いただくなど、地域を巻き込んだ活動ができています。